****
開講科目名：租税法研究III　（4単位）
開設年次：1年 2年 3年 4年
開設学部：法学研究科修士課程法学専攻
担当者：山田　麻未
****

≪授業の概要≫
１.授業の概要
授業の目的
　租税法の基本的な考え方を理解し、税制が変わっても実務で長く使えるようその構造を把握する。租税法における基本的なアプローチを確認し、なぜそのような考え方や取扱いになるのかについて講義し、修士論文作成のための基礎力を養成する。

授業の進め方
　租税法上の重要な項目について、その理論と課題を理解するため、重要判例を中心として講義を行う。全体を通じて、細かい部分を追うよりも、応用の効く基礎学力の養成　を目指す。
　具体的には、テキストとして指定した『ベーシック税法』のうち、第1章「租税と法」と第4章「租税と手続」を中心に講義を行うことを予定している。社会の中における生きた法の役割を理解し、さまざまな事象に対し実際に租税法を使いこなしていけるよう、訓練を積み重ねていくこととする。
　受講に当たっては、予習では講義で採り上げるテーマについて事前に検討を加え疑問点等を整理しておき、復習では参考書の該当箇所や判例評釈等を確認して考察を深めておくことを求める。

授業内容
1. 租税とは何か（租税の特徴、租税の種類、租税の機能）
2. 税法とは何か（税法の体系、税法の法源、課税要件）
3. 税法の基本原則??租税法律主義（課税要件法定主義、課税要件明確主義）
4. 税法の基本原則??公平負担原則
5. 税法の解釈
6. 借用概念と固有概念（税法と私法）
7. 租税回避
8. 信義則（信義則の意義とその根拠、信義則の適用要件と効果）
9. 租税の賦課徴収（租税行政の組織、申告納税制度、青色申告制度）
10. 更正・決定の手続
11. 推計課税
12. 納税者の権利保護
13. 訴訟

２.評価方法
試験に代わるレポート、出席及び授業への取組み等で評価する。

≪テキスト≫
岡村忠生・渡辺徹也・高橋祐介『ベーシック税法（第7版）』（2013年、有斐閣）

≪参考書≫
金子宏ほか編『ケースブック租税法（第4版）』（2013年、弘文堂）
水野忠恒ほか編『租税判例百選（第5版）』（2011年、有斐閣）
その他、講義の中で適宜紹介する。